

# 埋文やまがた



1999年1月29日  
第12号



遊佐町上高田遺跡出土の人面墨書土器 実大

財団法人 山形県埋蔵文化財センター

YAMAGATA PREFECTURE ARCHAEOLOGY CENTER

〒999-3161 山形県上山市弁天二丁目15番1号 TEL 023-672-5301(代) FAX 023-672-5586



# 墨で描かれた顔

## — 人面墨書土器 —

人面が墨書された土器は奈良時代（8世紀）にあらわれて、平城京などの都で多量に使われました。そののち平安時代を主にして地方でも使われだします。

この時代には政治の争いや自然災害、天候不順による飢饉や疫病などが多々おこりました。

都では厄災をもたらす異類異形の瘟鬼（疫病神）からの災いを避けるために、専用の甕に人面を墨書して川に流して疫よけの祭祀（おはらい）としたようです。その証に多量の人面墨書土器が平城京跡などの遺跡から見つかっています。

県内でも出羽国府と考えられている史跡「城輪柵跡」周辺の遺跡や、内陸部の村山地域でも発掘調査によって人面墨書土器が見つかっています。これら甕または坏に描かれた顔形は一樣ではなく多種多様のもが見られます。地方へと広がった人面墨書土器がもちいられた祭祀は、描かれた顔の違いや同じく器に書かれた墨書、出土状況の違いなどから見ても、今のところ単純にはその使われ方に同じ解釈ができないようです。

けれども人面墨書土器から古代社会の中にごめく情念の世界の一端が見られるのではないのでしょうか。

### 遊佐町

## 上高田遺跡

上高田遺跡は遊佐町市街の北西2キロ、高瀬川の左岸に位置します。

人面墨書のある赤焼土器の甕が幅13メートルある川跡（SG2）から1点出土しています。川跡からは「丈」や「舎人」、「弓削連」の墨書土器をはじめ多種多様な木製品、木簡等が見つかっています。

人面墨書土器は高さ13センチあり胴部に顔が四面描かれてますが、ところどころ欠けているため、一つとして全体がはっきりと見られる顔がありません。顔の輪郭線はなく眉に目、鼻と口のみが描かれています。それぞれの顔は似た描き方をしていますが、眉や目に見られる表情が異なり、唇の下に上弦の月のような線があることから髭を表しているのではないかと思います。

参考資料：山形県埋蔵文化財センター、「上高田遺跡発掘調査報告書」、1998年。



上写真の人面墨書の展開（赤外線テレビによる繋ぎ写真）





## 酒田市 横代遺跡

横代遺跡は新井田川の左岸，国指定史跡「城輪柵跡」の南側5キロに位置しています。

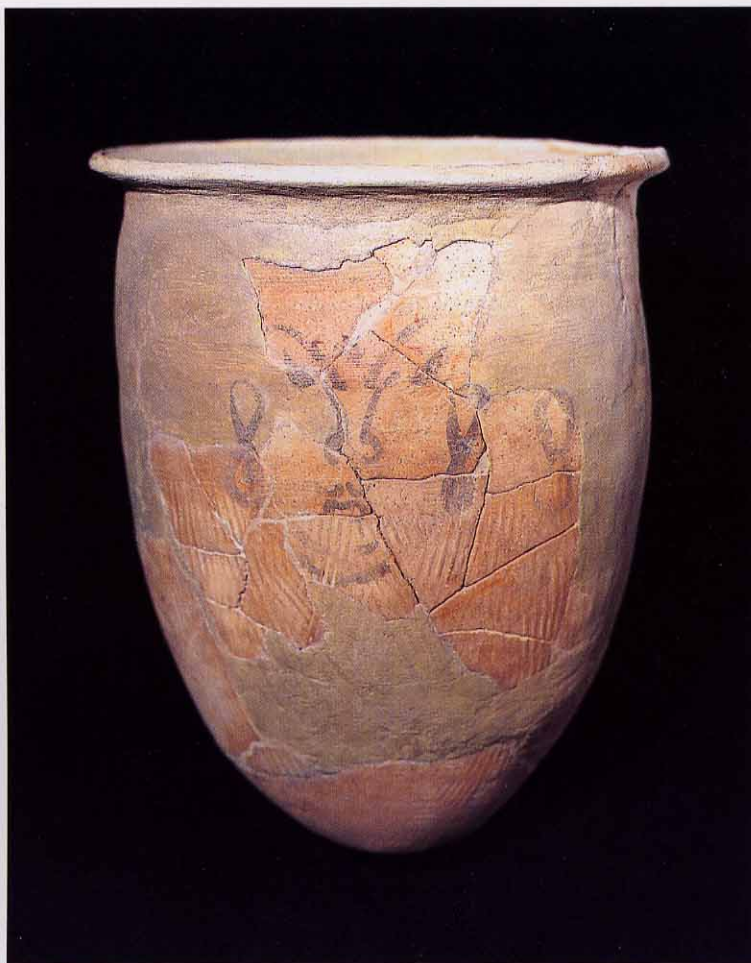
人面墨書は川跡（SG7）から出土した赤焼土器の底が丸い長胴甕が1点あります。

川跡は幅4～8メートル，深さは30センチほどあり，二つの川が重複していたようです。甕のほかには須恵器の坏が3点，多数の斎串と細い串状木製品，弓状木製品などが出土しています。須恵器の坏には「在」と「石」と書かれた墨書があります。

人面墨書の甕は高さ33センチ，口径26センチあります。底に2センチほどの打ち欠かれた穴が開けられています。

人面は明らかにわかるものが二面描かれています，耳の描画が複数あることからみると，おそらく四面描かれていたと思われます。顔の輪郭線はなく，眉と目がつり上がっている特徴があり，耳は8の字状に太い筆で勢いよく描かれています。

参考資料：山形県教育委員会，「大槻新田遺跡・手蔵田3遺跡・横代遺跡・熊野田遺跡発掘調査報告書」，1989年。



## 遊佐町

## 小深田遺跡



小深田遺跡は日本海へと注ぐ月光川の左岸，JR遊佐駅の西側に位置しています。

人面墨書のある赤焼土器甕の破片が1点，溝状遺構（SD279）から出土しています。俵田遺跡や横代遺跡の甕と同じ形の丸底の長胴甕と思われます。

太い筆で黒々とまん丸い目と耳が描かれているようにも見えますが，全体像は破片なのでよく解りません。ことよったなら人面ではないのかもしれませんが。

ほかに「Ω」という墨書土器が20点ほど出土しています。



墨書

参考資料：山形県教育委員会，「小深田遺跡発掘調査報告書」，1989年。





# 八幡町 俵田遺跡

俵田遺跡は八幡町市街の南西3キロに位置し、北西2キロには史跡「城輪柵跡」があります。全国でも初めてという祭祀遺構が見つかりました。そしてこの一部として人面墨書土器があります。

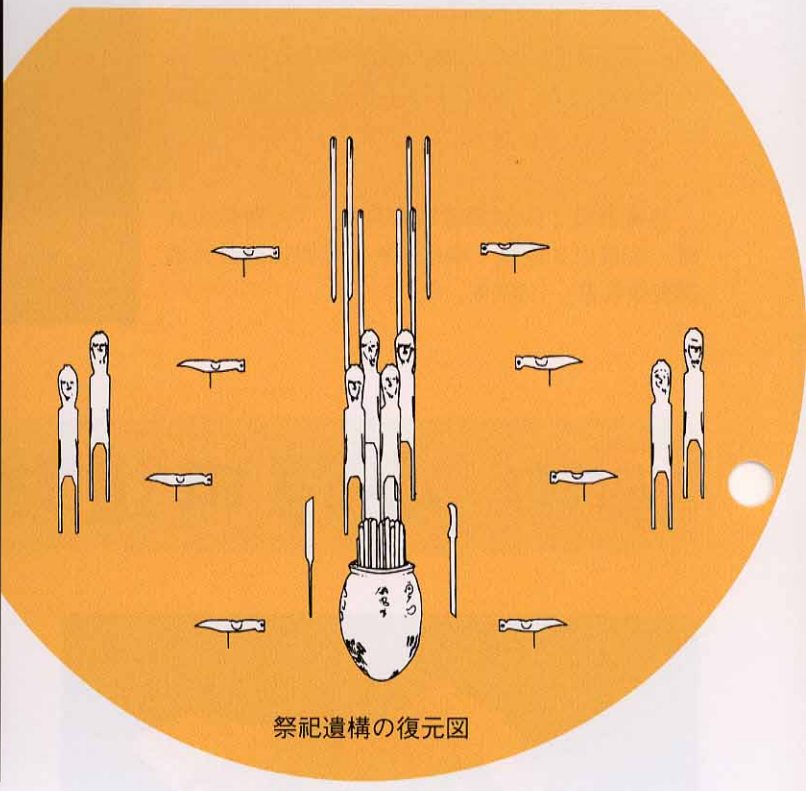
祭祀遺構（右下図）は墨書土器と木製形代が齋場として配置されたものです。径5メートルほどの範囲の中に人面墨書土器を手前中心に、割板で作られた人形代、馬形代、刀形代、齋串がそれぞれ結界などの役目になって配置されています。

甕の中には齋串と人形代の切り取られた股部分があり、ほかに火切り白などが出土しています。

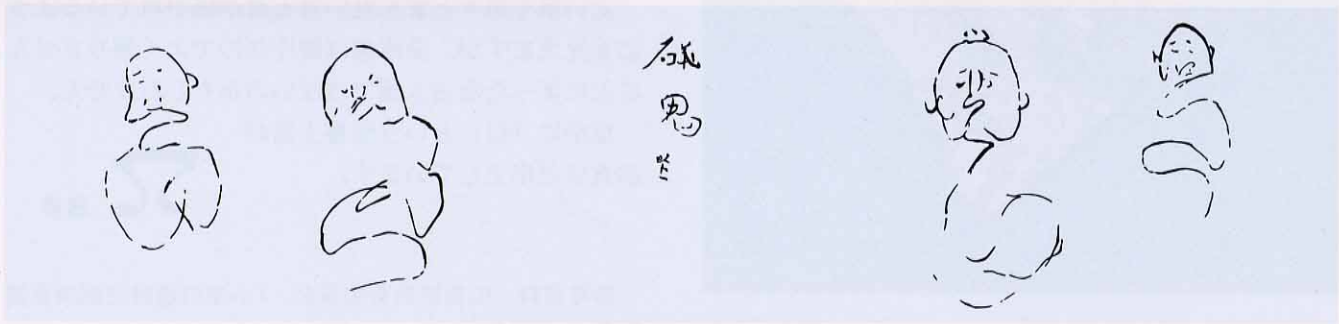
人面墨書の甕は高さ35センチ、口径19センチあります。横代遺跡の甕同様に、底に打ち欠かれた小さな穴が開けられています。人物像が4体と「磯鬼坐」の墨書があります。なお、人形代の裏面にも「石鬼坐」の墨書が見られます。

人物像は輪郭のある頭部に、胴部が流麗な線で簡略に描かれ、各像ともにそれぞれ表現が異なります。一体の頭部には被り物のような表現が見られます。

参考資料：山形県教育委員会、「俵田遺跡第2次発掘調査報告書」、1984年。



祭祀遺構の復元図



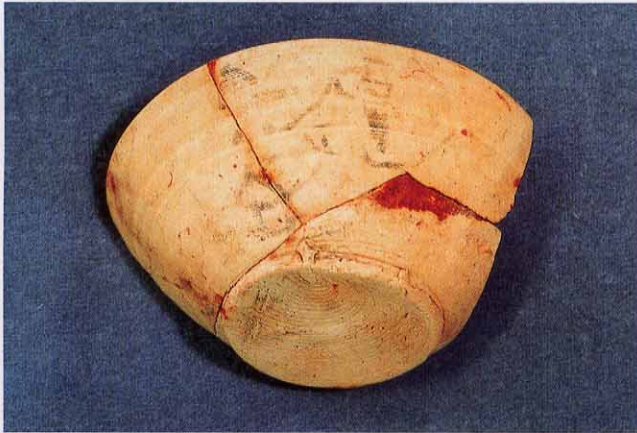
左上写真の人物像と墨書の展開図





遊佐町

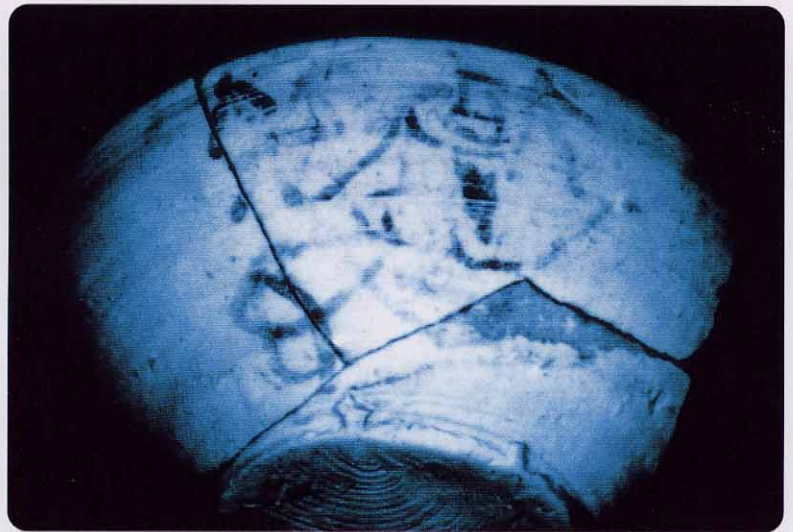
## 木原遺跡



木原遺跡は遊佐町市街の北西2キロに位置します。人面墨書がある赤焼土器の坏が1点、小判形をした長径1.7メートルの土坑（SK43）中央から出土しています。ほかに同じ赤焼の坏が2点、須恵器甕の小破片、それに斎串が2点あります。

人面墨書は墨痕が不鮮明なこともあり、顔と認めずらい点もあります。文字を集中して書いたものかもしれません。

参考資料：山形県埋蔵文化財センター、「木原遺跡第2次発掘調査報告書」、1994年。



### ●赤外線テレビによる撮影

赤外線テレビは、炭素が赤外線をよく吸収する性質を利用して、墨で書かれた文字を鮮明に写して解読に利用されます。

寒河江市

## 三条遺跡

三条遺跡は寒河江市街の南端1.5キロに位置する、高瀬山遺跡群のある段丘に接した緩やかな傾斜地にあります。川跡から木簡や400点を超す墨書土器が見つかっています。

人面墨書がある須恵器の坏破片が1点、楕円形をした長径1.2メートル深さ20センチほどの浅い土坑（SK1775）から出土しています。土坑は竪穴建物跡が3棟見つかった地区にあります。

破片のため全体はわかりませんが、見開かれた目、額のしわやきりっと結ばれた唇、頭部からは踊り狂うような頭髪が勢いある筆使いで描かれています。

参考資料：山形県埋蔵文化財センター、「三条遺跡第3次調査説明資料」、1996年。







# 山形市 今塚遺跡

今塚遺跡は山形市街の北3キロに位置する、古墳時代と平安時代の集落跡です。

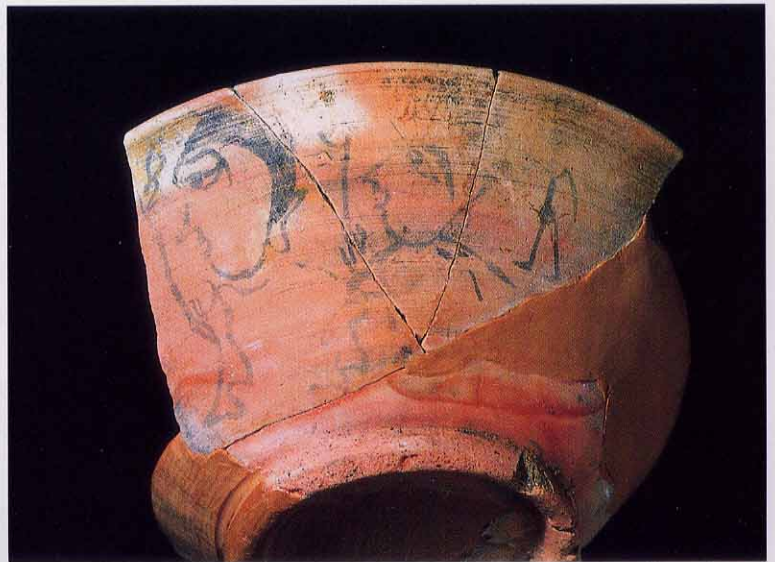
人面墨書のある赤焼土器の高台坏破片が1点建物跡群から離れた幅2メートルの溝跡(SD377)で、木簡や墨書土器と共に見つっています。共に出土した墨書土器には「王」, 「高」それに呪符の記号が書かれたものがあります。

この人面墨書はこれまで紹介したものとは少々異なります。烏帽子をかぶったような人物像が二人描かれ、手には呪符を挟んだ呪いの棒を持っています。

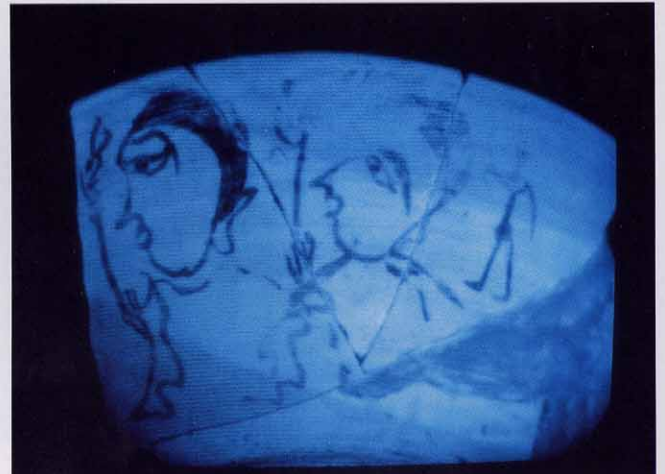
この人物像は呪いの様子を写し取ったものなのか、それともこのような絵を土器に描き供物と共に捧げ、呪いを取りおこなったものなののでしょうか。

さらに、土器の内面には三カ所ほどに意味が取れない墨書が見られます。

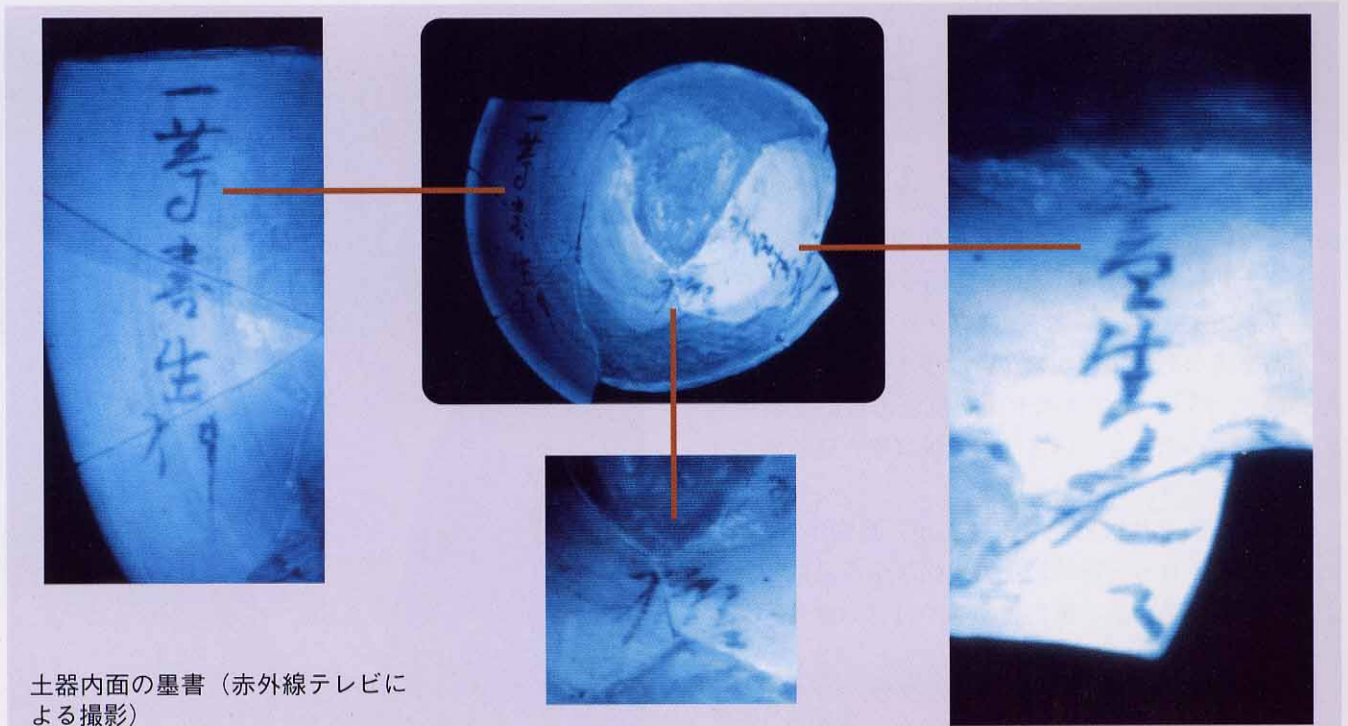
参考資料：山形県埋蔵文化財センター, 「今塚遺跡発掘調査報告書」, 1996年。



呪符の墨書



赤外線テレビによる撮影



土器内面の墨書（赤外線テレビによる撮影）





# 山形市 城南一丁目遺跡

市街地での調査はビルや鉄道，アパート，駐車場に囲まれており，田畑に囲まれたのどかな発掘とは違った雰囲気があります。ここ城南一丁目遺跡の発掘調査は山形市街地の中心部，JR山形駅の西口に隣接する新都心ビル建設に先立っておこなわれました。

ここは江戸時代の初めには山形城三の丸南側の一部で武家屋敷が並んでいました。その後農地となったものの，明治時代以降は工場，練兵場，国鉄の施設など様々に利用されてきました。

調査では，堀跡や石組みの井戸跡，土坑などから陶磁器や“かわらけ”などの生活用品が数多く見つかりました。中世末から近世にかけての城下の人々の暮らしの一端を知ることができる資料です。

また，奈良・平安時代の家跡や川跡が検出され，より古い時代の集落もありました。新しくは防空壕とみられる地下施設跡，線路の枕木を止める釘，送電に使われた碍子<sup>がいし</sup>が出土したりと，近代・現代の土地利用がよくわかる遺構と遺物が見つかりました。

(黒坂雅人)



遺構を検出したばかりの状況



竪穴住居跡（古代）と防空壕跡（近代）



かわらけ出土状況（中世）



石組みの井戸跡（中世～近世）



石組み遺構（中世～近世）



# 朝日町 上川原山ノ神遺跡

縄紋時代晩期の木柱24基検出

山形県教育委員会が1998年10月に発掘調査をおこなった朝日町玉ノ井の上川原山ノ神遺跡で、縄紋時代晩期（約2700年前、<sup>おおほら</sup>大洞C2式期）と考えられる木の柱が24本見つかりました。遺跡は「<sup>だいかいぎゅう</sup>大海牛発見地」すぐ側の最上川の河岸段丘上に立地します。ほ場整備の水路予定地を長さ80メートル、幅2.5メートルにわたり調査しました。

木柱は表土下50センチほどで検出され、柱を埋めるために掘られた穴（掘り方）も検出されています。掘り方は径50～60センチ、大きなもので1メートルあります。木柱はクリ材と考えられ、大きいもので直径40センチ、長さ90センチほどあります。

モニュメントや特別な建物であった可能性もあると考えられています。



調査区近景（南から写す）



柱穴内の木柱



柱穴の土層と木柱



柱穴の検出状況（北から写す）

## 編集後記

🍏 今回は古代の顔の特集をお送りしました。今も昔も、ひとびとの日々幸せな暮らしを祈る気持ちにはかわりませんが、古代人は何を思い、何を願ったのでしょうか。人面墨書の異様な顔つきの中に、彼らの精神生活が垣間見られるのではないのでしょうか。（郊）